

Weekly Report

(2013 年 3 月第 4 週)

光世証券株式会社

株式市場概況

● 先週（3/11 - 3/15）の動き

日経平均は、新体制による日銀政策決定会合が日程を前倒しで行われるとの報道や、米国の経済指標の好調を好感し、上昇が継続した。ドル円が月曜日の安値 96.5 円から円高に振れ、株価が弱含む場面もあったものの、押し目買い意欲は強く、下値は限定的だった。結局、日経平均は前週末比+1.45%の 1 万 2,560 円で一週間の取引を終えた。

セクター動向は、上昇トップが海運となった。他には、不動産の上昇による含み益に注目が集まったことから倉庫運輸、不動産業がそれに続いた。下落は石油石炭のみ。上昇率が小さかったものは、電気ガス、情報通信、食料品などディフェンシブとなった。スタイルインデックスでは、日銀による買入れ拡大期待や不動産の含み益への評価から REIT の上昇が目立つ。

セクター動向(先週末比)			各種国内株式指数動向(先週末比)				
海運	8.11%	石油石炭	-0.20%	REIT 指数	12.46%	TOPIX	3.05%
倉庫運輸	7.76%	電気ガス	0.04%	東証2部	3.85%	TOPIXグロース	2.74%
不動産業	6.55%	情報通信	0.37%	TOPIXスモール	3.56%	ミッド400	2.64%
空運	5.78%	食料品	0.54%	TOPIXバリュー	3.35%	日経平均株価	2.26%
証券商品先物	4.86%	非鉄金属	0.60%	コア30	3.23%	マザーズ	-0.15%
銀行業	4.73%	ガラス土石	1.16%	TOPIXL70	3.10%		

● 各国の主要経済指標

日本のマネースtock M2（2 月・前年比）は 2.9%（予想 2.7%・前月 2.7%）となった。機械受注（1 月・前年比）は-9.7%（予-0.3%・前-3.4%）と予想を大幅に下回った。企業物価指数（2 月・前年比）は-0.1%（予-0.1%・前-0.2%→-0.3%）と予想と一致。第三次産業活動指数（1 月・前月比）は-1.1%（予-0.2%・前 1.4%→1.1%）となり、国内のサービス業の業況に若干の不安を覚える内容となった。首都圏新築マンション販売（2 月・前年比）は-10.9%（前-5.4%）と悪いものの、統計開始からの 2 月の数値から見ると、昨年に次ぐ値となっており、不安視する必要はないようだ。

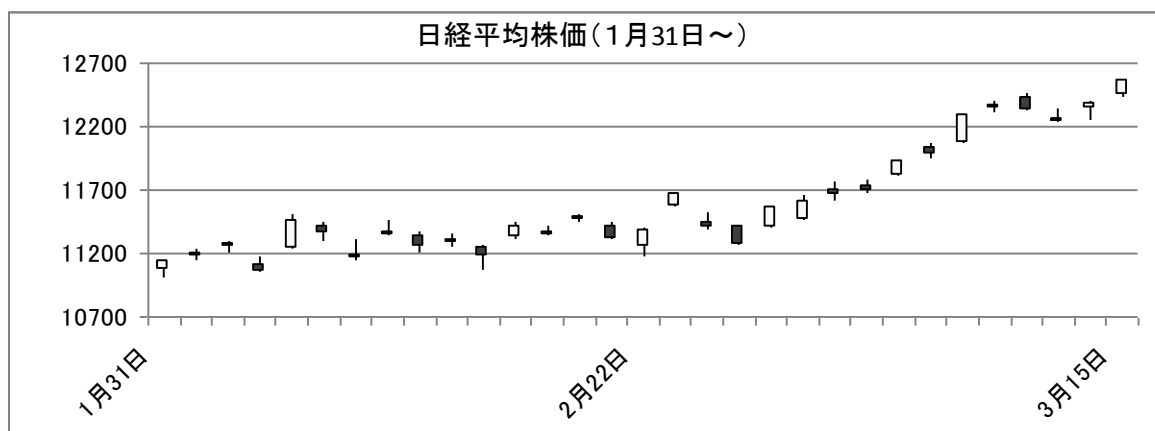
米国の小売売上高（2 月・前月比）は 1.1%（予 0.5%・前 0.1%→0.2%）となった。燃料価格の値上がりが影響した。企業在庫（1 月・前月比）は 1.0%（予 0.5%・前 0.1%→0.3%）と予想を上回った。新規失業保険申請件数（前週）は 33.2 万（予 35 万・前 34 万→34.2 万）と雇用環境の改善が継続していることを示した。

中国の CPI（2 月・前年比）は 3.2%（予 3%・前 2%）となった。鉱工業生産（2 月・年初来前年比）は 9.9%（予 10.6%・前 10%）、小売売上高（同）は 12.3%（予 15%・前 14.3%）と生産、消費共に予想を大きく下回った。固定資産投資（同）は 21.2%（予 20.7%・前 20.6%）と予想を上回り、不動産取引が引き続き過熱気味であることを示した。

今後の注目材料

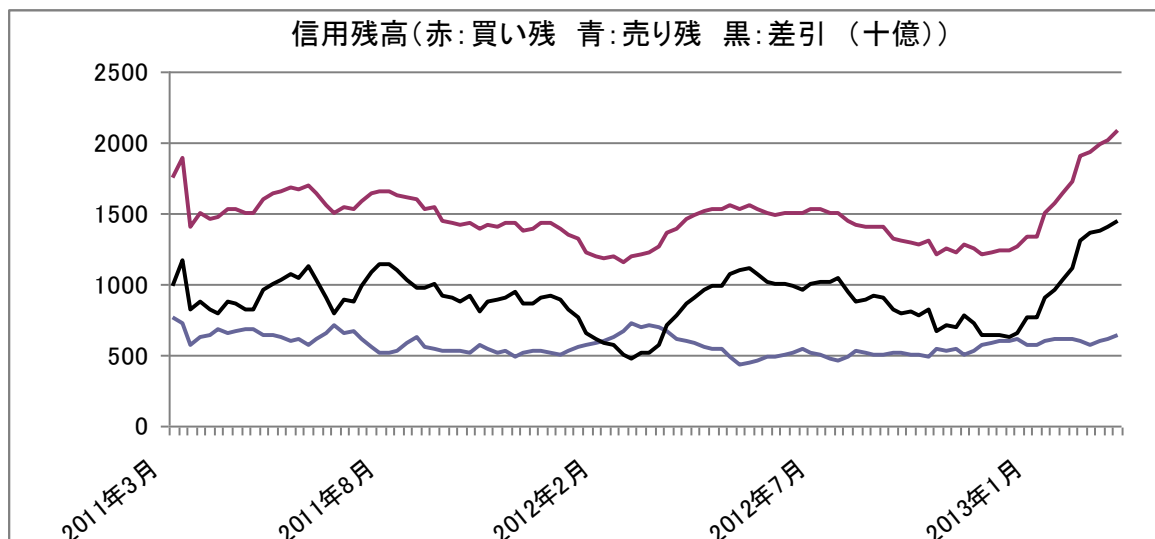
前週に日銀の総裁・副総裁人事など、注目されていたイベントが終り、今週は次の材料待ちとなるだろう。噂されているように日銀政策決定会合が予定を前倒しで行われるなら、次の上昇材料となる可能性が高いが、それが無ければ株価は期末を睨み動きづらくなるかもしれない。

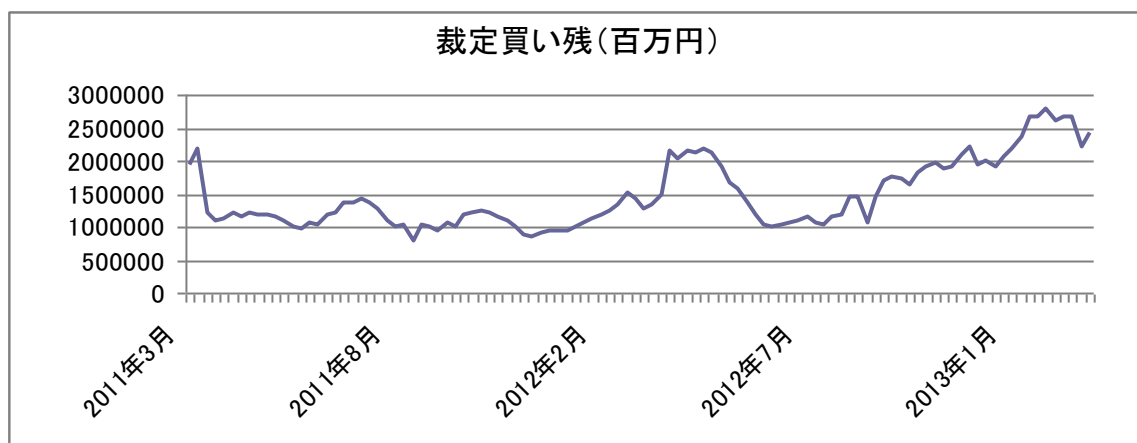
少し気にかかっているのは、日本の経済指標が良くないという点だ。現状を表す指標を見ると数値の改善はあまり見られず、アナリスト予想を下回るものが多い。11月から期待のみで上がっているように言われるが、11月辺りの日本の経済指標は予想を上回るものが多く、それに先行き期待が加わり、大きな上昇につながった。ここから株価が一段高するには実態経済の改善が必要であり、徐々に上値は重くなってくるだろう。



株式市場の需給動向（前週分）

信用買い残高、裁定買い残高ともに増加。投資部門別売買動向では、国内主体は全て売りとなったものの、海外投資家が統計開始以来、初めて週間で一兆円を超える買い越しとなった。これまでの海外投資家の週間最高買い越し額は2004年3月1週の9,678億円だった。その当時の日経平均の動きだが、翌週に高値をつけ、その後調整、3月23日をボトムとして、4月中旬にかけ新高値を更新。その後、もみ合った後、4月下旬から5月中旬にかけて約14%の調整が入る展開となっている。





	自己	委託	投資信託	事業法人	信託銀行	個人	海外投資家
2013/3/8	-299.71	301.19	-28.53	-70.80	-199.99	-278.30	1017.28
2013/3/1	12.24	-3.21	-36.12	234.65	-61.59	-157.34	295.80
2013/2/22	63.34	-59.81	-24.60	23.59	-172.48	-63.35	224.96
2013/2/15	11.01	-18.36	-28.18	-3.27	-219.08	80.19	182.85
2013/2/8	-127.42	123.03	-2.94	3.10	-108.77	129.48	150.68
2013/2/1	41.15	-31.57	-47.63	-10.19	-170.91	-114.36	382.07
2013/1/25	20.44	-29.78	-9.38	1.06	-161.35	-9.83	199.16

次週のウィークリーレポートは休刊となります

光世証券 小川 英幸

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。運用方針・資産配分等は、参考情報であり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

光世証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号
加入協会／日本証券業協会